



下村為山(画家)が描いた一葉の肖像画



甲州市塩山の慈雲寺にある一葉の文学碑

キッズニュース 山梨ゆかりの文学者「樋口一葉」を学ぼう!

この秋、県立文学館は、開館20周年を迎えます

平成元年11月3日に開館した山梨県立文学館は、今年、開館20周年を迎えるんだよ。文学館は、山梨出身の文学者や山梨と関係の深い文学者たちが残した資料を大切に保存し、未来に伝えていこう、そして、みんなが文学に親しめる場となるように、建設されたんだ。

今年の秋は、開館20周年記念企画展として「樋口一葉と甲州」を開催しているよ。5千円札に顔写真が出ている樋口一葉が、山梨とどんな関係があるのかが、きっとわかるよ。みんなで文学館に調べに行ってみようよ!

樋口一葉ってどんな人?

一葉の両親は、甲州中萩原村(現在の山梨県甲州市塩山)出身だよ。ふたりは、江戸時代の終わりに江戸に移り住み、明治5年には、一葉が誕生。本を読むのが大好きな一葉は、学校でも優秀な成績だったよ。でも、11歳で学校をやめ、そのかわり「萩の舎」という塾で、書道や和歌、日本の古典文学を一生懸命勉強したんだ。

17歳でお父さんを亡くした一葉は、家族を助けるために小説家になろうと決心。その後、「たけくらべ」「十三夜」「にこりえ」という小説がすぐれた作品だと認められたけれど、胸の病にかかり、24歳という若さで亡くなってしまったんだ。

一葉は、亡くなる一年前に小説「ゆく雲」を書いたよ。主人公 野沢桂次は、一葉の両親と同じ中萩原村の生まれ。小説には、中萩原村の風景などがこまかく書かれているよ。きっと、両親が生まれ育った山梨の話を幼いころから聞かされていたんだね。

開館20周年記念企画展「樋口一葉と甲州」(11月23日)

20周年となる今年には、企画展「樋口一葉と甲州」が開催されているよ。

この企画展では、一葉が筆で原稿用紙に書いた「ゆく雲」の下書きをはじめ、一葉が山梨の親戚に宛てた手紙など200点の資料が展示されているよ。その中で、一番のお楽しみは、今年、新たに購入した一葉の代表作「たけくらべ」の主人公美登利を描いた絵。

みんなと一緒に成長する「山梨県立文学館」

県立文学館は、来年2月2日に、常設展をリニューアルオープンするよ。「一葉のコーナー」は、原稿の複製が直接手にとって見られるような工夫もあるんだよ。楽しみだね。

そして、みんなが楽しみながら文学に親しめるチャレンジ文学館や朗読会、映画会などさまざまなイベントも計画しているよ。これからは、みんなに愛される文学館になるように成長していくから、遊びにきてね。



企画展「樋口一葉と甲州」に展示されている「奈良県法隆寺の金堂西壁画の模写」
一葉のおじいさんやお父さんと親しかった真下晩松(甲州中萩原村出身)という人の縁で、甲州市にある放光寺に納められています。甲州市の文化財にもなっています。

小学生と中学生が俳句づくりに挑戦

みんなは俳句って知ってる? 5・7・5の17音からできている短い詩で、季節を表す季語という言葉を入れながら、感じたことなどを表現するんだよ。文学館では俳句にもっと親しんでもらおうと、夏休みに俳句づくりに挑戦する会を開いたよ。

参加したのは小学1年生から中学2年生までのお友達。最初に保坂敏子先生から、俳句づくりについてお話を聞いたよ。その後、俳句の中から



季語を探すクイズを楽しみながら勉強して、いよいよ俳句づくりに挑戦!



5・7・5の音になるように指を折って数えたり、みんなとっても真剣な表情。お友達同士で参加した男の子は、「短い言葉の中に自分の気持ちを表すのがおもしろい」と楽しそう。みんなそれぞれ三〜五句作り、今度はその中から一番気に入った句を選んで色紙に筆で書き、その句に合った絵を描く作品づくりに挑戦したんだ。



俳誌「白露」同人、山梨日日新聞俳句欄選者 保坂 敏子 先生

「素直な気持ちと、相手を思う心を大切に」

俳句づくりで大切なのは、感じたこと、思ったことを素直に表現すること、楽しくつくることですね。同じ景色を見て俳句をつくっても、人それぞれ感じ方は違い、できる俳句も違います。ほかの人の俳句を見て、「こんな感じ方もあるんだ」「すごくいい表現だな」なんて、相手の気持ちを大切に思うことも大事です。俳句だけでなく、いろんなことに挑戦して好きなものを見つけると、そして好きになったことをずっと続けていくことは、とても大切なことだと思います。ぜひ気軽に、俳句づくりに挑戦してみてください。

ぜひ気軽に、俳句づくりに挑戦してみてください。

夏休みの思い出 いっぱい素敵な句に



句に添えられた絵は、水面に映るホタルの光や、大きなひまわり、トマトやスイカ、プールなどなど、夏休みの思い出がいっぱい! 最後に一人ひとり前に出て作品を発表し、みんな大きな拍手をもらっていたよ。おばあちゃんと一緒に参加していた女の子は「初めて俳句をつくった



のでちょっと難しかった。でも、句の横におばあちゃんが絵を描いてくれた楽しかった」ととってもいい笑顔。別の女の子は「今日は最高の出来!」とすごくうれしそうだったよ。

文学館で偉大な一句と出合ってみて

ちよつと難しいかな?と思う俳句づくりだけど、挑戦したお友達はみんなとっても楽しそうだったよ。山梨には飯田蛇笏、龍太という親子2代の偉大な俳人もいるんだ。文学館には蛇笏、龍太の作品もたくさん展示してあるので、ぜひ偉大な一句に触れてみて。そしてきみもぜひ一句、詠んでみてね!

「ミュージアム甲斐in券」で、芸術の秋を満喫!!

購入した日から一年間、県立文学館、県立美術館、県立博物館、県立考古博物館の4館の常設展、企画展・特別展を何回でも観覧できるお得な「ミュージアム甲斐in券」があるんだよ。この券は、4館の窓口で販売しています。

【ミュージアム甲斐in券】
一般 5,000円 大学・高校生 2,500円 中・小学生 1,250円

- この秋の企画展・特別展の紹介
- 【県立美術館】特別展「イメージをめぐる冒険 20世紀巨匠たちの挿絵本」(10月17日~11月23日)
- 【県立博物館】企画展「甲斐道をゆく 一交流の文化史一」(10月3日~11月30日)
- 【県立考古博物館】特別展「卑弥呼時代の黄泉世界~上の平方形周溝墓群発掘30周年」(10月10日~11月29日)

山梨県立文学館 〒400-0065 甲府市貢川1-5-35 ☎055-235-8080 📠055-226-9032